

事務事業 No./名 称	■サービス部門 健福-37 母子保健事業 □支 援 部 門									
主管課	市民健康課	関連課	発達支援室 こどもみらい課 こども相談課							
分野名	健康福祉									
目標 (目標値)	母性並びに乳幼児の健康の保持									
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考					
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯						
	事業の対象者数	17,547人	17,547人	14,722人						
運営資源 状 況	決算値(千円)	121,109	118,853	125,609	平成24年度分 交付金等内訳 ・妊婦健診補助金 18,635,000円 ・安心こども基金 4,180,000円 ・未熟児権限委譲交付金 2,454,000円 合計 25,269,000円					
	(国・県)	25,269	25,053	28,245						
	(負担金等)	0	0	0						
	(一般財源)	95,840	93,800	97,364						
	人員配置数	9.2	9.2	9.2						
	人 件 費(千円)	73,629	79,246	80,914						
	協 働 の	医療機関	医療機関	医療機関						
	パートナー									
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	194,738	198,099	206,523						
	市民1人当 りの経費(円)	1,099	1,118	1,166						
	対象者1人 当りの経費(円)	11,098	11,290	140,281						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名	鎌倉市	横浜市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	大和市	海老名市	小田原市	
	H23 乳児家庭 全戸訪問事業	98.9%	70.8%	105.0%	93.3%	93.0%	92.0%	85.0%	97.0%	
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)			
乳児家庭全戸訪問事業	◎	目標値	84%	86%	87%	88%	90%			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	80.0%	95.5%	98.9%	99.4%				

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
母子保健事業	121,109千円	①効率性○	②妥当性○	③有効性○	④公平性○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	母子保健法に基づき、 * 母子健康手帳、すくすく手帳の交付を行う。 * 妊産婦健康診査補助券を交付し、妊婦健診14回、産後1か月健診1回の助成を行う。 * 家庭訪問(妊産婦・新生児・未熟児等)、乳幼児健康診査、両親教室、育児講座、乳幼児健康相談等を行う。 児童福祉法、児童虐待防止法に基づき、 * 乳児家庭全戸訪問事業及び養育支援訪問事業を行う。(安心こども基金対象事業)				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	* 健診等の常設会場の確保ができないため、看板から身長体重計、診察用器械類ほか一式の準備・運搬・設営等が毎回必要となっている。 * ハイリスク妊婦(高年・疾病合併等)や多胎児が増加傾向にある。			
課題解決のための取組	* 就労等で平日母子手帳交付手続きが行えない方に対し、夜間(月2回)及び土曜日(月1回)、交付窓口を開設するとともに、ハイリスク妊婦への健康相談を実施した。 * 食育の取組みの一環として、離乳食も視野にいれ、両親教室のプログラムにバランスの良い薄味の献立等の調理実習を加えた。 * 多胎児を育てる保護者に対し個人通知を行い、教室を定例開催した。			取組の結果
未解決の課題	* 両親教室の父親の参加数が、減少傾向にある。 * 健診の未受診者に対し、全数フォローが必要とされている。 * 児童・生徒を対象に、命の大切さを学校保健と連携しながら行っていく必要がある。			■解 決 □未解決

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切＝○ 要改善＝△ (評価の視点 を参照)		①効率性	○	今後の 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続C:改善・見直しD:統合縮小 E:廃止・休止	※□事業完了
			②妥当性	○		・通年で健診等の母子保健事業が実施できる会場の確保に努める。 ・近年増加傾向のハイリスク妊婦や支援を要する保護者に対し、母子保健事業の各場面で専門的支援を行う。 ・乳幼児健康診査の未受診者に対し、受診勧奨を行うとともに全数フォローを行う。 ・思春期保健については、現行の講演会だけでなく、小中学生を対象とした命の教育をしていけるよう検討していく。	課長等名
			③有効性	○		↓	
			④公平性	○		A	市民健康課長 大澤 一則

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
母子保健事業	主な個別事業	106 母子保健指導嘱託員報酬	8,268	7,842	○	○	○	○
		106 母親教室・育児講座講師等謝礼	276	276	○	○	○	○
		106 妊産婦・新生児等訪問指導謝礼	3,703	3,671	○	○	○	○
		106 母子健康手帳等消耗品費	935	930	○	○	○	○
		106,784 すくすく手帳・妊産婦健康診査補助券等印刷製本費	985	813	○	○	○	○
		106,784 妊産婦健診等委託料	73,434	72,840	○	○	○	○
		106 乳児健診(4か月児、お誕生前)委託料	19,032	16,884	○	○	○	○
		106 幼児健診等委託料	11,371	10,996	○	○	○	○
		106,784 指定医療機関外の妊産婦健診・乳児健診補助金	4,104	4,216	○	○	○	○
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							